

## Dの総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性	透水性	不透水層（岩盤）	(2次整備可能地整理表より)	
		地形	丘陵		
現地調査	地形・地質の状況		堆積性砂岩はとても良い。費用はかかるかもしれないが、施設設計のバリエーションが多く取れる。 CHクラス（比較的堅硬）の砂岩と推察。良好な地盤である。	○	
	植生の状況		河川の上流と支流に囲まれた山林（二次林）	△	
	土地利用の状況		山林（二次林）	○	
	主要道路の状況		センターラインのある舗装	○	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から300m以内の住居数	平均値（20戸）以上	△
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値（61m）未満	△
	下水道整備状況		整備区域までの距離	平均値（4.6km）以上	△
経済性	概算工事費		埋立容量1m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値（12,133円）以上	△
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離		平均値（38.5km）未満	○
		高速道路ICからの距離		平均値（15.4km）未満	○
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果（○，△，－の数）			<p>河川上流部の丘陵地で、山林となっている。建設するに当たり小さな沢地形を活用することになるが、岩盤を掘削するため、比較的高い概算工事費を必要とする。</p> <p>不透水性の極めの細かい岩質で強固であるが、地形を活かすと言うより、岩盤を大規模に掘削すれば、強度の高い最終処分場にはなる。</p> <p>住居が多く、かつ敷地境界が住居と近接している。</p> <p>排出重心から比較的近いことから、利便性は高い。</p> <p>これらを踏まえると、住居が多く、かつ敷地境界が住居と近接していることから、生活環境への影響が大きく、岩盤掘削のための割高な概算工事費等も考慮すると、候補地としては不適當と思われる。</p>	<p>○：8個</p> <p>△：5個</p> <p>－：0個</p>	

Eの総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性		透水性	不透水層（岩盤）	(2次整備可能地整理表より)
			地形	丘陵	
現地調査	地形・地質の状況		堆積性砂岩。施設配置のバリエーションはやや低い。 民家に近く、施設の圧迫感がある可能性がある。	△	
	植生の状況		河川上流右岸側の山林（二次林）	△	
	土地利用の状況		山林（二次林）	○	
	主要道路の状況		センターラインのある舗装	○	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から300m以内の住居数	平均値(20戸)未満	○
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値(61m)未満	△
	下水道整備状況		整備区域までの距離	平均値(4.6km)以上	△
経済性	概算工事費		埋立容量1m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値(12,133円)以上	△
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離		平均値(38.5km)未満	○
		高速道路ICからの距離		平均値(15.4km)未満	○
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果(○, △, -の数)			<p>河川上流部の丘陵地で、山林となっている。建設するに当たり小さな沢地を複数活用するため、掘削量が多くなり、高い概算工事費を必要とする。</p> <p>不透水性の極めの細かい岩質で強固である。住居はやや少ないが近接している。排出重心から比較的近いことから、利便性は高い。</p> <p>これらを踏まえると、強固な岩盤や利便性を考慮しても、掘削量が多く、割高な概算工事費を要することから、効率的整備ができないと考えられ、候補地としては不相当と思われる。</p>	<p>○：8個 △：5個 -：0個</p>	

Fの総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性	透水性	不透水層（岩盤）	(2次整備可能地整理表より)	
		地形	丘陵		
現地調査	地形・地質の状況		沢が底部になるので、その水処理対策は遮水処理をしっかりと行う必要あり。 地形を活用できる長所がある。	○	
	植生の状況		河川上流左岸側の耕作放棄地、放置された山林（二次林）	△	
	土地利用の状況		山林（植林・二次林）、墓地	△	
	主要道路の状況		センターラインのある舗装	○	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4 未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から 300m 以内の住居数	平均値 (20 戸) 以上	△
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値 (61m) 以上	○
	下水道整備状況		整備区域までの距離	平均値 (4.6 km) 以上	△
経済性	概算工事費		埋立容量 1 m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値 (12,133 円) 未満	○
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離		平均値 (38.5km) 未満	○
		高速道路 I C からの距離		平均値 (15.4km) 未満	○
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果 (○, △, - の数)			<p>河川上流部の丘陵地に囲まれた耕作放棄地や周辺の山林で構成される。建設するに当たり沢地形（底部）を活用することで、比較的低い概算工事費で建設可能。</p> <p>台地からの湧出水処理の措置は必要になるが、不透水性の岩盤で強固である。</p> <p>住居数はほぼ平均相当であるが、敷地境界と近接住居が離れている。排出重心から比較的近いことから、利便性が高い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>	<p>○：9 個</p> <p>△：4 個</p> <p>-：0 個</p>	

Gの総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性	透水性	不透水層（岩盤）	（2次整備可能地整理表より）	
		地形	山地		
現地調査	地形・地質の状況		沢地形で水対策が必要。砂岩で岩は良好。地形を生かすのであれば、沢水対策が必要。沢水量が多い。地形は処分場に適している。	○	
	植生の状況		山林（二次林）。周辺の環境は良好であり餌場や水場、繁殖・営巣地として使用されている可能性あり。猛禽類の食痕あり。	△	
	土地利用の状況		山林（二次林）	○	
	主要道路の状況		センターラインのある舗装	○	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4 未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から 300m 以内の住居数	平均値（20 戸） 未満	○
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値（61m） 未満	△
	下水道整備状況		整備区域までの距離	平均値（4.6 km） 以上	△
経済性	概算工事費		埋立容量 1 m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値（12,133 円） 未満	○
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離		平均値（38.5km） 以上	△
		高速道路 IC からの距離		平均値（15.4km） 以上	△
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果（○，△，-の数）			<p>河川中流部の西側にある山地で、耕作放棄地や周辺の山林で構成される。建設するに当たり沢地形（底部）を活用することで、比較的低い概算工事費で建設可能。</p> <p>台地からの湧出水処理が必要になるが、不透水性の岩盤で強固である。</p> <p>住居は少ないが、直近住居まで近く、また、猛禽類の捕場となっている。</p> <p>高速道路 IC からの距離が、候補地の中で一番遠い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れているが、生活環境への影響を考慮すると、候補地としては不適當と思われる。</p>	<p>○：8個 △：5個 -：0個</p>	

Hの総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性	透水性	不透水層（岩盤）	(2次整備可能地整理表より)	
		地形	山地		
現地調査	地形・地質の状況		地盤状況は判断できず、詳細な調査が必要。地形図から、多数の沢があり、水対策が必要と推察される。	—	
	植生の状況		山林（二次林）。周辺の環境は良好であり、餌場や水場、繁殖・営巣地として使用されている可能性あり。希少種の生息可能性あり。	△	
	土地利用の状況		山林（二次林）	○	
	主要道路の状況		センターラインのない舗装（一部幅員狭小）	△	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4 未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から 300m 以内の住居数	平均値（20 戸）以上	△
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値（61m）未満	△
	下水道整備状況	整備区域までの距離	平均値（4.6 km）未満	○	
経済性	概算工事費	埋立容量 1 m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値（12,133 円）以上	△	
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離	平均値（38.5km）以上	△	
		高速道路 IC からの距離	平均値（15.4km）以上	△	
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果（○，△，－の数）			<p>河川中流部の西側にある山地で、山林で構成される。建設するに当たり小さな沢地を複数活用するため、掘削量が多くなり、高い概算工事費を必要とする。</p> <p>住居が多く、かつ敷地境界が住居と近接している。</p> <p>主要道路も一部幅員が狭小であり、希少種が生息する可能性がある。高速道路 IC からも遠い。</p> <p>これらを踏まえ、生態系に与える影響、生活環境への影響や経済性を考慮すると、候補地としては不適當と思われる。</p>	<p>○：5 個 △：7 個 －：1 個</p>	

I の総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性	透水性	不透水層（岩盤）	(2次整備可能地整理表より)	
		地形	山地		
現地調査	地形・地質の状況		地形的には傾斜地に建設することになる。基盤は不明。	—	
	植生の状況		山林（二次林）。周辺の環境は良好であり餌場や水場、繁殖・営巣地として使用されている可能性あり。希少種の生息可能性あり。	△	
	土地利用の状況		山林（二次林）	○	
	主要道路の状況		センターラインのない舗装（一部幅員狭小）	△	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4 未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から 300m 以内の住居数	平均値（20 戸）以上	△
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値（61m）以上	○
	下水道整備状況		整備区域までの距離	平均値（4.6 km）以上	△
経済性	概算工事費		埋立容量 1 m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値（12,133 円）未満	○
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離		平均値（38.5km）以上	△
		高速道路 IC からの距離		平均値（15.4km）以上	△
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果（○，△，—の数）			<p>河川中流部の西側にある山地で、山林で構成され、地形的には傾斜地に建設することになる。掘削量が少なく、比較的低い概算工事費で建設可能。</p> <p>希少種が生息する可能性がある。</p> <p>住居が多く、主要道路も一部幅員が狭小であり、高速道路 IC からの距離も遠い。</p> <p>これらを踏まえ、生態系に与える影響や生活環境への影響を考慮すると、候補地としては不適當と思われる。</p>	<p>○：6 個</p> <p>△：6 個</p> <p>—：1 個</p>	

J の総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性	透水性	不透水層（岩盤）	(2次整備可能地整理表より)	
		地形	丘陵		
現地調査	地形・地質の状況		崩落地となっており、傾斜が緩い。細粒砂岩と思われる。採掘量が多くなる可能性がある。	△	
	植生の状況		山林（植林・二次林）。周辺の環境は良好であり餌場や水場、繁殖・営巣地として使用されている可能性あり。希少種の生息可能性あり。	△	
	土地利用の状況		山林（植林・二次林）	○	
	主要道路の状況		センターラインのある舗装	○	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4 未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から 300m 以内の住居数	平均値（20 戸） 未満	○
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値（61m） 未満	△
	下水道整備状況		整備区域までの距離	平均値（4.6 km） 未満	○
経済性	概算工事費		埋立容量 1 m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値（12,133 円） 以上	△
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離		平均値（38.5km） 以上	△
		高速道路 I C からの距離		平均値（15.4km） 未満	○
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果（○，△，-の数）			<p>河川下流部の東側にある丘陵地で、山林で構成される。建設するに当たり小さな沢地を複数活用するため、掘削量が多くなり、候補地の中で最も高い概算工事費を必要とする。</p> <p>不透水性の岩盤であるが、表面は風化し、一部の岩盤表面から地下水が浸み出し、近隣に種類の異なる岩質を有するなど、地盤の性状を詳細に調査する必要がある。</p> <p>住居が近接しているが、下水道整備区域からは近い。希少種が生息する可能性がある。</p> <p>これらを踏まえ、生態系に与える影響や生活環境への影響に加え、割高な概算工事費により効率的な整備ができないと考えられることから、候補地としては不適當と思われる。</p>	<p>○：8 個 △：5 個 -：0 個</p>	

Kの総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性	透水性	不透水層（岩盤）	(2次整備可能地整理表より)	
		地形	山地		
現地調査	地形・地質の状況		沢地形で水対策が必要だが、地形は良好。岩は弱く、漏水が多いので周辺地盤の全面遮水も必要である。	△	
	植生の状況		よく手入れがされている山林（管理された植林）。周辺の環境は良好であり餌場や水場、繁殖・営巣地として使用されている可能性あり。希少種の生息可能性あり。	△	
	土地利用の状況		山林	△	
	主要道路の状況		センターラインのある舗装	○	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4 未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から 300m 以内の住居数	平均値 (20 戸) 未満	○
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値 (61m) 以上	○
	下水道整備状況		整備区域までの距離	平均値 (4.6 km) 未満	○
経済性	概算工事費		埋立容量 1 m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値 (12,133 円) 未満	○
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離		平均値 (38.5km) 以上	△
		高速道路 I C からの距離		平均値 (15.4km) 未満	○
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果 (○, △, - の数)			<p>河川中流部の東側にある山地で、複数の小さな沢地で構成される。建設するに当たり、複数の沢地形を活用することになるが、低い概算工事費で済む。</p> <p>岩盤表面は風化し、一部地下水がしみ出るなど、遮水対策が必要であるが、不透水性の岩盤である。</p> <p>希少種の生息可能性があるものの、住居が比較的少ないうえ、下水道整備区域までは近い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>	<p>○ : 9 個 △ : 4 個 - : 0 個</p>	



Mの総合評価結果

分類	項目		内容	評価	
地形・地盤	地盤の透水性	透水性	不透水層（岩盤）	（2次整備可能地整理表より）	
		地形	山地		
現地調査	地形・地質の状況		谷地形で、地形形状から岩盤は良好と判断。地形を活用し、容量も確保できる。 互層なので、施工上、注意が必要と考えられるが、工夫することで対処できる。施設設計では、かなり有利。	○	
	植生の状況		希少種は確認できず。	○	
	土地利用の状況		その他	○	
	主要道路の状況		センターラインのある舗装	○	
自然環境	地盤の状況	表層地盤増幅率	1.4 未満	○	
生活環境	住居の状況	住居数	敷地境界から 300m 以内の住居数	平均値（20 戸）未満	○
		距離	敷地境界から直近住居までの距離	平均値（61m）以上	○
	下水道整備状況		整備区域までの距離	平均値（4.6 km）未満	○
経済性	概算工事費		埋立容量 1 m <sup>3</sup> 当たりの工事単価	平均値（12,133 円）未満	○
	排出重心からの距離等	排出重心からの距離		平均値（38.5km）以上	△
		高速道路 I C からの距離		平均値（15.4km）未満	○
その他	中間処理施設用地確保の可能性		用地の確保が可能	○	
	土地履歴等	不法投棄事案の有無	ない	○	
総合評価結果（○，△，－の数）			<p>山地で、谷地形となっている。建設するに当たり、地形を活用し、低い概算工事費で建設可能。 不透水性の岩盤で強固であり、生物の多様性に乏しい。</p> <p>近隣に住居がなく、事業場が僅かにあるが、下水道整備区域までは近い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>	<p>○：12 個 △：1 個 －：0 個</p>	